



国名	マラウイ共和国 (Republic of Malawi)
面積	118,484平方Km (日本の約1/3)
人口	1,756万人, 人口増加率2.9% (2018年: マラウイ国勢調査)
首都	リロングウェ
独立	1964年7月6日
公用語	英語, (国語: チェワ語)
政体	共和制
大統領	ラザルス・チャクウェラ

Homepage www.japan-malawi.org
 Email info@japan-malawi.org
 Facebook facebook.com/japan.malawi
 Twitter twitter.com/JpMalawi
 YouTube [Malawi Society of Japan](https://www.youtube.com/channel/UC...)

東京五輪・パラリンピックでマラウイ躍動

日本マラウイ協会副会長 柳沢香枝

五輪・パラリンピックは東京で2度目の開催でしたが、五輪初参加が1972年だったマラウイにとっては初の東京大会となりました。

今回の五輪に参加した選手は柔道、陸上、アーチェリー各1名、水泳2名の計5名です。柔道のハリエト・ボンフェス・「ヤワラ」選手のコーチは元JICA海外協力隊員の工藤龍馬さん。隊員時代からの師弟です。柔道と陸上の選手は、7月11日からホストタウンの群馬県太田市で事前キャンプを行い、本番に臨みました。競技では、陸上女子100mに出場したアシメニエ・シムワカ選手がマラウイ記録を更新するなど、どの選手も今持てる力を最大限発揮してくれたと思います。

マラウイの審判員も活躍しました。ベルナディター・クウィムビラさんは、サッカー女子の予選2試合、準々決勝1試合の副審を務めました。さらに3位決定戦ではアフリカから初めて副審の補欠に選ばれるなど、高い評価を得ました。

パラリンピックは、マラウイの歴史は浅く、前回のリオ大会への参加が最初です。今回は、陸上競技に2名が参加しました。視覚障害の女子1500mに出場したタオネレ・バンダさんはリオに続いての参加で、2019年にはコーチとともに日体大でトレーニングを受けました。

閉会式では、国際パラリンピック委員会のI'mPossible賞の初の授与式があり、リロングウェLEA小学校が唯一の海外校として受賞しました。I'mPossible運動は、健常児も含めてパラスポーツを体験し、障害への理解を深めることを目的としています。マラウイ・パラリンピック委員会はいち早くこの運動に賛同し、国内だけでなくザンビアでの普及活動にも貢献しています。

様々な議論があり、異例の無観客開催でしたが、理念である「多様性と調和」を、マラウイも体現していたのではないのでしょうか？



日本マラウイ協会

日本マラウイ協会
Malawi Society of Japan

両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を
 通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体。
 1983年2月26日設立。公益社団法人青年海外協力協会会員。

入会ならびに会費納入のお願い

当会は、会員が納入する会費により運営を行っております。会の目的、活動内容に賛同される方々のご入会、会費納入をお願い申し上げます。

ホームページからお申込みいただく方法が最も簡単ですが、集いなどの受付でもお申込みいただくことも可能です。

※年会費のオンライン支払はホームページをご参照ください。

区分	入会金	年会費	備考
正会員	1,000円	3,000円	
賛助会員	0円	1,000円	郵便物の送付なし
団体会員	3,000円	10,000円	公的・非営利団体
法人会員	10,000円	30,000円	協賛企業

方法	口座など
銀行振込	三菱UFJ銀行 東恵比寿支店 (普) 0255739「日本マラウイ協会事務局」
郵便振替	ゆうちょ銀行 〇一九店 (ゼロイチキョウ店) (当) 0013125「日本マラウイ協会」 ゆうちょ銀行送金: 口座番号00190-7-13125



日本マラウイ協会

日本マラウイ協会

機関紙 (年2回発行)

KWACHA

<http://www.japan-malawi.org> info@japan-malawi.org

第65号
2021年
11月1日発行

協力隊マラウイ派遣50周年を迎えて

青年海外協力隊マラウイ共和国派遣50周年、この歳月は日本青年の一つの歴史です。

関係各位それぞれの感慨は異なるにしても、青年海外協力隊を舞台に【730日の青春】の情熱と努力の足跡を、マラウイ共和国そしてマラウイ人の心に残した思い出を持つ私も帰国隊員は、50周年が単なる【祭典】に終わってはならないと願う幾多の声を耳にしました。正に、この50年に亘る【志】ある若者の活動が、その本人にも、送り出した側にとっても、また日本社会、更に格差拡大が指摘される南北世界の関係に於いても、重く、厳しく検証されてこそ、政府事業として創設された本事業の意味するものが明らかになるでしょう。またそれは参加した若者のその【行為】に



対する評価にもつながってくるでしょう。この様な視点に立ち、日本マラウイ協会はこの記念すべき年に、心新たにマラウイに於ける青年海外協力隊の検証を行い、地球/人類の共存共栄を基調としながら多様に変化



派遣50周年に寄せて

JICAマラウイ事務所長 丹原一広

マラウイへの協力隊派遣50周年にあたり、日本マラウイ協会様をはじめ、多大なるご支援、ご協力をいただいている皆様に、心から感謝申し上げます。

マラウイには、累計1,897名(2021年10月現在)のボランティアが派遣されました。世界一の派遣規模となっているとともに、一人一人の活動、そして、派遣中や帰国後に深められた現地の方々との交流によって、かけがえのない「信頼と絆」が築かれています。

マラウイにおける協力隊事業は、新型コロナウイルス禍による中断の後、今年6月、新たな一歩を踏み出しました。新型コロナウイルスは、人との協働やコミュニケーションのあり方に大きな変化をもたらし、マラウイの人や社会にも様々な影響を与えたと思います。Withコロナ、ポスト・コロナとされる世界において、現地の人々と共に働き、共に成長していくという協力隊の神髄をいかに発揮していくか、新たに派遣された隊員たちとともに、試行錯誤しながら取り組んでいきたいと考えています。

50年にわたる歴史においては、交通事故等により12名の方が派遣中にお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。決して悲劇を忘れることなく、絶対に繰り返すことがないよう万全を期すとともに、ご遺志を引き継ぎ事業推進に全力を尽くしてまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

マラウイ初代隊員 日本マラウイ協会顧問 貝塚光宗

する国際社会に憶いをいたし、今後真摯に対処すべくと存じます。それは取りも直さず本事業を共に進めてきた隊員受け入れ国【マラウイ共和国】がこの50年間に[どのように変わってきたのか]・[その実態はどうなのか]、そして今後本事業がマラウイ共和国に対応していくには[どうあるべきなのか]を考えることだと思います。青年海外協力隊マラウイ派遣隊員等の永年の経験によって培われた【知恵】を結集すべき時ではないだろうかという思いから、本事業の進展に寄与された諸賢各位に[来し方]を省みつつ、新しい時代の【行く末】を語ってもらい、今までの労苦を原点として、更なる前進を願う次第です。

50周年に当たり、以下の課題について検討が必要と考えます。

- ①マラウイの若者によるマラウイ人への協力隊構想(1997年/9月、来日したマレウエジ副大統領が日本マラウイ協会長らと接見時に言及)、②マラウイ共和国に於ける歴代隊員の一人当たり50人ともいわれる人脈図の全体図作成、③チェワ語辞典及び国情紹介誌等の改訂版作成。

派遣50周年の現役隊員として

マラウイ派遣2021年度7次隊 中田慧



デッサ県ムアの中田慧さん

初めまして、2021年度7次隊の中田慧と申します。私はマラウイ国内での訓練・研修を終え10月、言語聴覚士としてデッサ県ムアにある聴覚障害特別支援学校に派遣されました。

私は以前2019年度2次隊としてマラウイへ派遣されていましたが、新型コロナウイルスの影響により日本へ帰国しました。帰国した当初は煮え切らない思いとどうにもならない現実と向き合いながら、再びマラウイの地を踏むことを願っていました。そしてこの度、たくさんの方々のサポートのおかげでマラウイへ再び来ることができました。派遣が決まってからはコロナ禍での生活の不安、特にアジア人に対する差別や偏見が無いのか不安がりましたが、以前と変わらずマラウイの人々は暖かく迎えてくれました。「こんにちは」と日本語でやさしくあいさつをされるたびに、今までのマラウイ派遣隊員の方々やどのように活動されていたのかがわかり、私もマラウイと日本をつなぐような活動をしていきたいという思いに駆られます。

青年海外協力隊マラウイ派遣50周年という節目に、現役隊員としてこの地にいられることに感謝し、これからの活動に精進していきたいと思っています。



祝！協力隊マラウイ派遣50周年

オンラインの集い Online Forum

参加無料 事前登録制 11月13日(土) 15:00~17:30 Sat. Nov. 13 Free admission Registration required



日本とマラウイをむすぶ Ceremony, Plenary & Breakout Sessions

式典・ライブ中継・講演会・分科会 Linking Japan and Malawi

～日→英同時通訳付～ Simultaneous Interpretation (Jp→En) Available

Ms Mutsumi Shiigi (Center)
椎木睦美さん(中央)



JICA Malawi Office Staff
JICAマラウイ事務所スタッフ

Co-Host
共催



<https://msj2021.peatix.com>

日本マラウイ協会・主催、JICAマラウイ事務所・共催、駐日マラウイ共和国大使館・後援で、協力隊マラウイ派遣50周年記念オンラインの集いをオンライン開催します。本年最後の記念行事の総集編となります。参加料は無料です。全国、いえ世界からご参加ください！

名称	マラウイを語るオンラインの集い2020
日時	2021年11月13日(土) 15:00~17:30 ※終了後オンライン交流会を予定しています
テーマ	未来創造
主催	日本マラウイ協会
共催	JICAマラウイ事務所
後援	駐日マラウイ共和国大使館
参加料	無料(事前登録をお願いします)
参加登録	https://msj2021.peatix.com

スマホから
申し込みます



Peatixサイトから無料の「チケット」を申し込んでください。Peatixのご利用が初めての場合、メールアドレスやお名前の登録が必要となります。お申込みいただいた方へオンラインの集いのZoom URLをお知らせします。

【式典】

西岡 周一郎 氏 (日本マラウイ協会会長)
小林 広幸 氏 (青年海外協力隊事務局長)
岩切 敏 氏 (在マラウイ共和国日本国特命全権大使)
駐日マラウイ大使 (予定)
【現地からのメッセージ】《事前録画の動画配信》
JICAマラウイ事務所 現地職員/ナショナルスタッフの皆さんの思い
出話・座談会: ムマンガさん、サイモンさん、ムワフさん、カパさん、マンガさん、マイケルさん、カンドウルさん
オースティン・ソンバ 氏 (マラウイ剣道協会 会長)

【記念講演】

椎木 睦美 (2014-2 青少年活動 ムジンバ県カゾンバ小学校)

【分科会】

各種プログラム準備中

【全体集会】

新隊員紹介 (井上里奈さん、寺門香音さん、田野辺裕史さん)

【閉会挨拶】

丹原 一広 氏 (JICAマラウイ事務所)

※終了後、オンラインの交流会を予定しております。

Zoomで参加いただけます

参加登録された方は、現在広く利用されているZoomを使ってビデオ会議に参加いただけます。開始30分前から接続できますので、ご準備ください。



準備するもの

いずれかの端末



そして、イヤホン (またはヘッドセット)

通信: Wi-Fi など

スマートフォンのモバイルネットワーク (4G等) でも閲覧できますが、長時間視聴しますので、契約されているデータ量を消費することになります。利用量の制限のない有線のインターネット回線、または、無料のWiFiで参加されることをお勧めします。



日本マラウイ協会 第39回 定期総会 報告

役員改正など3案件原案通り可決 日本マラウイ協会理事 水谷恭二

日本マラウイ協会の第39回通常総会が2021年6月26日(土)午後、JICA地球ひろば大会議室と各参加者をオンラインで結んで開催されました。

会員総数189名に対し、会場への来場、オンライン参加、委任状による計99人が出席し、①令和2年度の事業報告、収支報告、②令和3年度の事業計画、収支予算、③役員改選が審議されいずれも原案どおり可決されました。また、

- ・コロナ禍でオンラインにシフトせざるを得なかったものの、活発に活動したと思う。
 - ・会費の納入率の改善に取り組む必要がある。
- 等の意見が出されました。

役員改選では当会創立の頃から長くご尽力いただいた退任理

事の皆さまに拍手をもって感謝の意を表しました。退任者、新任者は以下のとおりです。

退任		新任	
専務理事	貝塚 光宗	顧問	貝塚 光宗
理事	中小原 淳	会長	西岡 周一郎
理事	藤村 俊作	理事	林 俊行
理事	殿村 孝	理事	進藤 寿則
理事	山村 俊之	理事	河野 進
理事	小松 建大	理事	松平 隆一
		理事	椎木 睦美
		理事	川崎 友紀子
		理事	櫻井 里奈

新会長挨拶 西岡 周一郎



今総会にて、貝塚専務理事始め当会創立以来の理事の皆様が退任されました。改めて長年の貢献に感謝、御礼申し上げたいと思います。

昨年来のコロナ禍は従来の世界の有り様を大きく変え、グローバル化、デジタル化が進んでいます。当会設立の原点である、“日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与する”との目的の実現に向け、新理事、会員の皆様と共に新たな時代に沿った事業・活動を推進して行く所存ですので、ご支援、ご協力を宜しくお願いします。

協力隊マラウイ派遣50周年企画 これまで、そしてこれから

日本マラウイ協会理事 水谷恭二

協力隊マラウイ派遣50周年の企画としてオンライン講演会を中心とした集いを3月20日、6月26日、8月21日と3回開催しました。

3月の「春の集い」は、在日マラウイ大使館と共催。バンダ大使やマラウイ外務省からカロンガ元書記官のご挨拶をいただき、50年間の歩みや、初代隊員の貝塚光宗日マ協会専務理事(当時)のインタビュー、草苺康子日マ協会理事と元協力隊訓練所講師のDrルイ・ンテダによるマラウイの協力隊研究の中間発表などがありました。

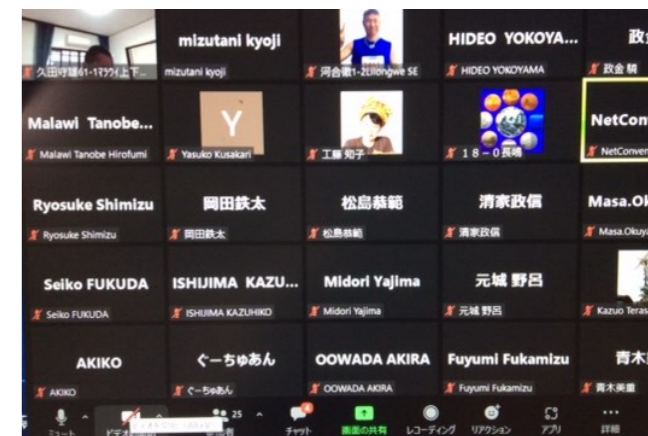
「6月の集い」では、マラウイへの派遣人数が多い教育、保健、農業の3職種を代表して、計7人の方々に登壇いただき、昭和、平成、令和の社会、生活の様子、活動、余暇、そして、今なお続くマラウイへの思いを発表いただきました。飛び入りでリンベのご自宅からチカゴ元大使のご挨拶があり、びっくり！

「8月の集い」には、マラウイ一歩運動に関わった計5人の方々に、経緯からご苦労の数々、そして現在のご様子をお話いただきました。

各回とも、プログラムの後には、自由参加の交流会が開かれ、

遠く離れていても、久しぶりの再会を喜ぶ方々が多数おられて盛り上がりました。オンラインならではの良さも実感したひと時となりました。

次回、11月13日の集いは、JICAマラウイ事務所と共催で50年の節目の時となる予定です。たくさんのご参加をお待ちしています。



世界から多くの方が参加した「8月の集い」